

やめよ! 徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信

特集号 (99. 6. 10)

事務局

TEL 0584-78-4119

大垣市田町1-20-17 近藤方

西濃の地下水の水道を守り続けるために

— 「水源転換」問題特集 —

徳山ダムができると、西濃1市13町は、今使っている水源を放棄して、126億円もお金を出して徳山ダムの水を買うことになっています。私たちは、高くて、まずくて、危険な水を飲むことになってしまいます。それは私たち住民の望みでしょうか？豊かな水は、西濃のいのち。ふるさとのくらしと文化を壊されたくはありません。住民に何の説明もない、議会でも取り上げない・・・どこかおかしくはありませんか？

長良川河口堰の水を飲まされることになってしまった知多半島の方、自慢の地下水の水道に淀川の水を混ぜられてしまった大阪府島本町の方、そして東京で水道問題に取り組む方から、「水源転換」問題について、寄稿して頂きました。

半田では、「上」水道が「並」となり

半田市・宮崎武雄

<河口堰の水が飲み水に>

昨年の4月から知多半島の5市5町の水道水の源水が、それまでの木曾川（愛知用水）の水から長良川河口堰の水に切り替わりました。まずい、臭い、カルキ臭が強くなった、風呂に入ると肌がピリピリする、浄水器のフィルターがすごく汚れる等の声が聞かれます。

切り替えの時に市民への説明は一切ありませんでした。この地方の水道水は、愛知用水の工業用水を（使い道がないので）暫定的に使用していたものでした。「長良川河口堰ができれば、水道水源にその水を使うのは前から決まっていたこと」というわけで、行政側は住民への説明は必要ないと考えたようです。しかし住民の大部分は「まさか長良川河口堰の水が知多半島に水道水として供給されるとは思ってもいなかっ

た」というのがいつわらない気持ちです。木曾川より遠い長良川の水を、木曾川の下にわざわざトンネルを掘って導水工事をし、まで引っ張ってくるなんてことを想像もしてなかったのです。私ども知多半島の住民が、まずくて、危険で、高い水を飲まされようになったにもかかわらず、農業用水と工業用水には従来通りおいしい愛知用水（木曾川）を使用しています。人の口に入る水道水の源水が農業用水、工業用水以下という状況に怒り心頭です。

<住民の健康が危ない>

川の最下流を堰き止めた長良川河口堰の水の水質はとてもひどいものです。長良川の水は全窒素、全リン、大腸菌が木曾川の2倍から数倍もある事は愛知県企業庁が長良川河口堰の水を水源として利用する為の

事前調査で明記されています。長良川流域には三白産業（スキー場、ダイコンの生産地、製紙工場）があり、汚染物質が入り易いのです。アンモニア性窒素を取り除く為に塩素処理をしますが、その際に発ガン物質のトリハロメタンが発生します。また、長良川流域は人口も多く下水道普及率が低いので、病原性微生物のクリプトスポリジウムが入ってくるおそれがあります。この微生物は塩素殺菌では死なないので、埼玉県ではクリプトスポリジウムの入った水道水を飲んだ住民が下痢などの症状を訴える事件がありました。さらに、この長良川には韓国や香港で水道水の異臭騒ぎの原因となった帰化動物のカワヒバリ貝というやっかいな二枚貝の棲息が確認されています。

こんな水道水を一生飲み続けて大丈夫なのでしょうか。

行政側は水質基準に合致するから安全だといいます。しかし、これは守るべき最低条件であり、安全の保証にはなりません。

一例を挙げれば、WHO は鉛の水質基準を0.01 mg/lと定めていますが、厚生省は

0.05 mg/lと五倍もゆるやかに設定しています。また水質基準にかかる農薬はシマジン、チウラム、チオベンガルブの三種類のみですが、実際に使用されている農薬は無数にあります。現在大きな社会問題になっている環境ホルモンは、基準がありません。昨年八月に建設省が全国の主要河川で環境ホルモンの調査を行い、結果発表された中に長良川河口堰がなぜか入っていません。実は堰上流伊勢大橋付近で全国最高値の環境ホルモンが検出されていて、今に至るも建設省はその事実をひた隠しにしておるとのことです。

佐布里の知多浄水場では、昨年7月7日から途中2回合計7日間の間断をはさんで9月1日まで活性炭が注入されました。浄

水場の水処理は沈殿、ろ過、殺菌が基本ですから活性炭の注入はそれ自体、水質の悪化を示すものと言えます。行政側が自ら認めた事に他なりません。活性炭は過去に災害時を除いて使用されていないからです。実際に活性炭の注入は高くつきます。5 mg/lの注入で1日ごとに約50万円かかります。7月は最大で7.5 mg/l、8月にはなんと26.3 mg/l、200万円以上となります。まったくのムダ使いです。

長良川河口堰は約30年も前に利水を目的に計画されましたが、水余りで事業目的が治水上必要と変更になり、治水の為にマウンドを浚渫すると海水が遡上して塩害が起こる、だから塩害防止には堰が必要という治水論が声高に叫ばれて建設されました。塩害防止に必要とされたのに、私どもの健康を害する危険度が非常に高いのが河口堰の水ということになります。一体誰のための安全が守られているのでしょうか？

<要らない水のツケが住民に>

長良川河口堰は、工業用水の需要が全くなく、愛知県は償還金を一般会計から支出しました。愛知県では今後20年かけて600億円以上を支払わなくてはなりません。98年度の段階ですでに水道会計が28億円もの赤字となり、一般会計から33億円を貸し付けて穴埋めしています。企業会計は独立採算が基本ですから、長良川河口堰の工業用水会計への税金の支出は違法だと昨年有志で監査請求をしましたが却下されましたので、裁判で係争中です。

木曾川の水が足りないから長良川河口堰の水が水道水源になったのではありません。知多半島の水道水に使われていた分は、使われない工業用水として木曾川を流れ下るだけです。需要の当てのない水源開発のツケを知多半島の住民が払わされているの

です。

＜水を守るのは住民の力＞

私は河口堰建設前から、反対運動のメンバーから、地元で導水反対の運動を起こすように要請されていましたが、非力の為、大きな住民運動にはなりませんでした。

今、住民は、口々に水のまずさ、危険性を話すようになり、先日の統一地方選挙では、県議選、市議選で大きな争点となりました。「鉄は熱いうちに打て」住民の関心が高まった今こそ大きな住民運動に広げて

行政に圧力をかけて元の木曾川の水の戻したいと思っております。

西濃地区の住民の皆さんにご忠告申し上げます。おかしいと思った時に声を上げないと後々大変な事になります。これが私の実体験からくる結論です。皆さんは「まさか西濃の豊富な地下水の水源を川の水に変えるはずがない」「徳山ダムと西濃の水道は関係ない」と思っていないですか？住民が声を上げないと「まさか」が起こってしまうのです。どうか徳山ダムの問題に関心をお持ち下さい。

大阪府島本町の府営水道導入と住民投票条例制定請求

島本町議会議員・加藤美恵子

大阪府三島郡島本町は、京都府との境に位置する人口3万人の町です。地下水を水源とするおいしい上水道は住民の誇りでした。97年、府営水道導入の工事費の予算化とともに、この水道に府営水道の水、つまり汚染で有名な淀川の水ブレンドして使うということが決定的になりました。住民に十分な情報の提供もないままに進められたこの計画に疑問を持った住民が、「府営水道導入についての住民投票条例をつくる会」を結成し、有権者の4分の1の署名（必要数は50分の1）を集めて住民投票条例制定を求めましたが、議会は否決してしまいました。島本町町議の加藤美恵子さんからの報告です。

＜名水の水道に淀川の水のブレンド＞

島本の上水道は、昨年秋まで、地下水百%でまかなわれて来ました。同じ地下から汲み上げられている町内の水無瀬神宮の離宮の水が、大阪府下で唯一、環境庁の全国名水百選に選ばれていることもあり、住民は水道水のおいしさを誇りとし、府下一高いと言われる水道料金にも我慢してきました。しかし残念ながら、昨年10月から、高度浄水処理がされているとはいえ淀川の水がブレンド（ブレンド率10%）され現在に至っています。以下経過報告です。

府営水導入に向けての町の住民への説明は、3度のパンフレットの配布と広報紙での「お知らせ」のみで、行政と住民との直接対話はなく、また町長は、97年の選挙でもこれを争点とすることを避けました。住民への積極的な節水の呼びかけや地下水に関する情報提供もなく、さらには十分な地下水調査や保全策を講じないままに、導入決定当初は人口の増加を、人口がそれほど伸びないと、「地下水不足」を主な理由に挙げての府営水の導入です。これに、住民は納得せず、有権者の四分の一、約6500名の署名を集めて「府営水道導入についての住民投票に関する条例制定」請求を

＜「住民投票条例」制定の請求と結果＞

町長に提出しました（昨年3月）。

これを受けて臨時議会が4月に開かれました。この「住民投票条例」制定請求は、府営水の導入は住民の合意に基づく結論をとつかねてからの私の主張とも合致し、条例制定に賛成しました。しかし、町長が臨時議会に提出した『意見書』の「府営水の導入の問題に関しては議会で十分な審議がなされてきた、また、これは行政の責務として執行すべき施策であり住民投票とその結果により結論を導くべきものではない、条例制定は必要なし」とする立場が支持され、「住民投票条例」案は賛成少数で否決されました。審議のなかで、府営水の導入では、島本町の必要性よりも大阪府の第7次府営水道拡張計画が優先されていることも明らかになりました。

<町づくりと住民投票>

私は今も、この住民投票の請求は、単に府営水道導入の賛否を問うだけのものではなかったと考えます。つまり、これは住民一人ひとりが、誇りとする島本の水を通して、21世紀にどのような町づくりを望むのかを意思表示する機会でもあったのです。今、島本町ではJR新駅設置をはじめ大型プロジェクトが動き出そうとしています。その町づくりに、住民投票は大いに参考になるはずでした。それは小さな自治体として持続可能な発展を選ぶのか、「大きな島本」の従来型開発を選ぶのか、つまり町づくりの基本に「環境」と「開発」のど

ちらを据えるのかを、住民自らが選択するはずだったのです。さらにまた、「住民投票条例」の制定・投票・その結果という一連の動きは、住民と議会と行政の連帯をつくりだし、地方分権の時代にふさわしい内発的な自治の確立を促す絶好のチャンスでもあったのです。

<島本の水、そして住民の思い>

条例制定請求が否決されて1年余りが過ぎました。「住民投票条例」制定請求には、多くの女性たちが、生活に根ざした運動を繰り広げました。住民、特に女性の視点が反映されない、行政と議会の奢りのなかで行われていく町づくりは、いつか、どこかで行き詰まるように思えてなりません。今後、住民の方々には次の選挙まで、各議員がどんな町づくりを追求・提案しているのか、じっくりと目を凝らしてみてほしいと思っています。

最後に私事になりますが、何度か引越しの機会がありながら、水のおいしさゆえにこの町に住み続け、思いもかけない議員という仕事にまでついてしまいました。そんな自らの来し方と重ね合わせ、今も、島本の水と関わっているであろう住民の一人ひとりの「歴史」に思いを馳せずにはられません。この運動を契機に、一住民として、議員として、約6500人の一筆一筆への思いを心に留め、今まで以上に、環境を大切にしたい町づくりを目指し、活動して行こうと思っています。

西濃地域の地下水＝自己水源を守ろう

水源開発問題全国連絡会事務局担当（勤務先：東京都水道局）

遠藤保男

地下水は水質が良い上に、「冬温かく、夏は冷たい」という、飲料水にとって最高

の特徴を持っています。地下水は最高級の飲料水源、あるいは、水道水源です。これを川の水（揖斐川＝徳山ダムの水）に水源転換をしようとする動きが行政の側にあるようです。

地下水は汲み上げすぎると地盤沈下を引き起こします。また、化学物質などにより汚染されると、じわじわと地下の中で汚染が拡大されます。地下水にはこのような問題が起き易い弱点があるので、国や県などは、飲料水源・水道水源として地下水に頼ることを縮小して、河川水に水源転換を図ることにしています。西濃地区で「地下水の水源を放棄して揖斐川（徳山ダム）の水にする」という水源転換対策費が計上されているのも、そういう流れに沿っています。でもちょっと待って下さい。

＜水質汚染ということ＞

水質汚染の可能性は、地下水より表流水の方がはるかに高いことは、常識でも分かる通りです。トリハロメタンなどの発癌性物質は表流水を水源とする場合、浄水場で塩素を注入するさいに副成物としてと生じるので、一般的には地下水よりはるかに危険性が高いのです。また揖斐川上流には産廃の不法投棄があり、取水口になるかと思われる場所のすぐ上流には排煙に50ナノグラム／立米ものダイオキシンを出しているゴミ焼却場があります。揖斐川の水にいわゆる環境ホルモンの何種類かが含まれていることはすでに明らかですが、まだまだ十分に調査されているとはいえません。さらに、徳山ダムで揖斐川の最上流を堰き止めれば、今より水質は悪化することは確かでしょう。

一方、発癌性物質である有機塩素溶剤による地下水汚染は、もちろん未然に防ぐべきですが、万一汚染された場合は、直ちに

汲み上げて処理すれば問題ありません。

地下水と川の表流水、どちらが安心かは明らかです。

＜地盤沈下のおそれということ＞

地下水は汲み上げすぎれば地盤沈下を引き起こします。西濃地域で工業用水がさかんに汲み上げられた頃には、確かに地盤沈下を起きました。今も西濃地区では水道水よりはるかに多い工業用水の汲み上げが行われており、地下水の汲み上げ量が地下水の補給量より上回っている可能性があります。このことが「水源転換」の口実に使われてしまう可能性が大きいので、注意しなければなりません。

地下水位を常に監視しつつ、揚水することと、揚水量に見合った地下水涵養を行うこと、これらをきちんと実行すれば、地下水を水源とすることは、表流水に依存するよりも遥かに渇水に強いのです。重要なのは、地下水位と地下水揚水量の実態を正確に把握しておくこと、地下水涵養策を確立すること、この三つです。この三つは、ダム建設によって表流水に転換する場合には、初期投資と維持管理に多額の費用がかかること、渇水時に異常な給水制限が付きまとうこと、などを考えると、はるかに容易なことです。問題なのは、意識的にこういう対策を自治体が取ろうとしないことにあります。

＜大切な自己水源の確保＞

水道水源を地下水から河川水に転換するという事は、新たな水源開発と新たな浄水場建設等が必要になることを意味します。河川水に転換してしまうと、その河川が異常渇水のときや水質汚染事故のときは水道水を出すことができなくなるので、他の河川からも水を取る、すなわち、水道の

広域化が図られます。こうなると金が湯水のごとく使われます。無駄な設備投資による料金値上げが待ち構えています。

また、水道の広域化は、これまで各地方自治体の範囲で水道を運営していたことを放棄することになります。これは地方自治の根底の一つを放棄することを意味します。「命の水」に地方自治体が責任を持たなくなるからです。

最高級の飲料水源、あるいは、水道水源である地下水をいつまでも使い続ける覚悟がないと、極端な言い方になるかもしれませんが、自分たちの命を何者かに奪い取られることとなります。

<西濃の地下水をいつまでも>

地下水汲み上げ適正水量を算出すること、それに見合うよう節水施策を組み込むこと、雨水の地下浸透に取り組むこと、などを県や市に要求しましょう。地下水汚染を未然に防ぐと共に、汚染を早く発見するために地下水の水質監視を常に行い、汚染があれば、直ちに抜本的対策をこうじるべく体制を確立させましょう。

徳山ダムに水利権を求めるなんて、西濃の否定とおなじこと。西濃のすばらしい地下水を保全しつつ、いつまでも使い続けるための努力を期待します。

徳山ダムは

イヌワシ
クマタカの棲む
森を守ろう

もう水は
要らない

ダムは
治水に役立たない

西濃の水道が
危ない

川を守るのは
豊かな森

自然は
未来からの
借り物

高すぎる
発電単価

要らない!!

「やめよ！徳山ダム」徳山ダム建設中止を求める会通信 編集責任：近藤ゆり子

事務局 大垣市田町1-20-1

TEL/FAX 0584-78-4119

郵便振替：00800-7-31632

Email: tokuyama@geocities.co.jp

URL: <http://www.geocities.co.jp/WallStreet/1214/>

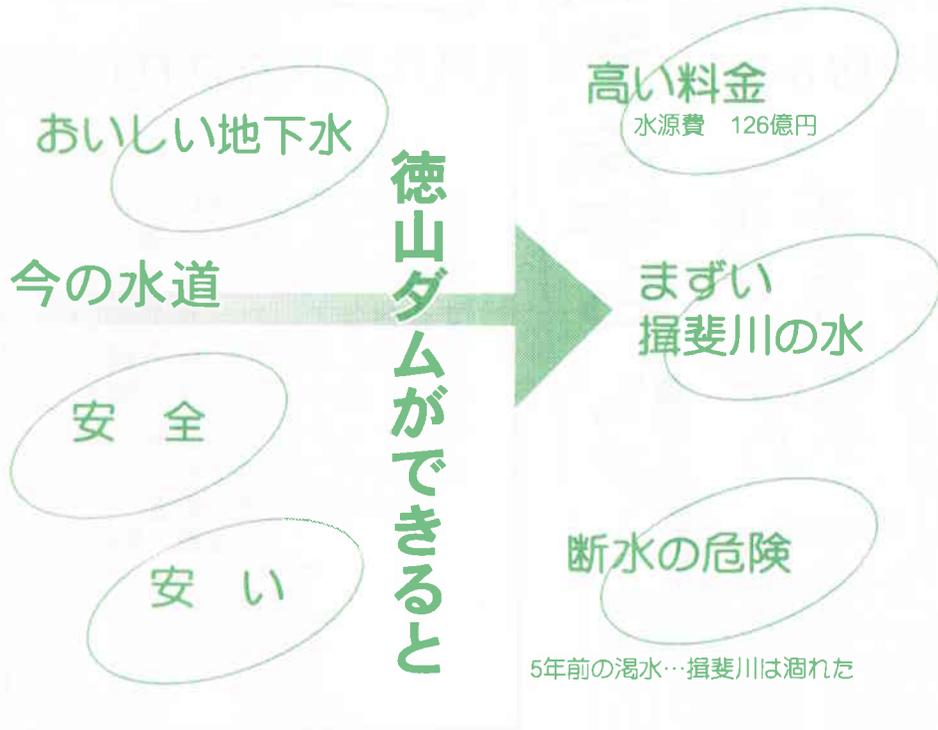
西濃の

おいしくて
きれいで
安い

水道を守りましょう

いよいよ危ない西濃の水道
岐阜県新年度予算に
「水源転換対策費」750万円

徳山ダムの水は要らない



洪水のとき、川の水を調節するよ。
洪水調節

徳山ダムでは揖斐川の水を止めきることはできない。建設省も認めています。

いつも豊かな水が流れるようにするよ。
流水の正常な機能の維持

ダムのせいで「正常な機能」が失われるのです。

新規利水の需要はありません。費用は住民にツケ回されます。

都市用水を生み出し、地域の発展をささえるよ。
新規利水

電気をおこすよ。
発電

風力発電より高い開発費。

イヌワシ・クマタカの住む・大切な自然が永久に壊されてしまいます。

徳山ダムができると、西濃1市13町は、今使っている水源を放棄して、126億円もお金を出して徳山ダムの水を買うことになっています。

私たちは、高くて、まずくて、危険な水を飲むことになってしまいます。それは私たち住民の望みでしょうか？

住民に何の説明もない、議会でも取り上げない…どこかおかしくはありませんか？

市（町）議会に「水道水源としての地下水を守る」「徳山ダムの水は買わない」という決議を上げさせましょう。

豊かな水は、西濃のいのち。ふるさとのからしと文化を守りましょう。

